2015 年度
特別支援教育フォーラム

2016 年 1 月 27 日
和歌山大学特別支援教育
コーディネーターフォーラム事務局
Info-seforum@center.wakayama-u.ac.jp

第６５回和歌山大学特別支援教育コーディネーターフォーラムを開催

１月２７日(水)夜に、和歌山大学コーディネーターフォーラムが、和歌山大学会場で開催されました。今回は、和歌山大学特別支援専攻科の学生の発表になっており、テレビ中継はしませんでした。お忙しい中、２０名の方が出席して下さいました。

講演内容

「特別支援教育に対する学校としての取り組みと
コーディネーターの役割について～C 小学校をもとに～」

発 表 者：和歌山大学　教育学部特別支援専攻科　　高木　俊輔

平成 24 年度、文科省が行なった調査によると、通常学級の知的発達に遅れはないものの学習面または行動面で困難を示すとされた児童生徒の割合は 6.5%だった。そのうち、支援されていない児童生徒は、40%を超えている。

C 小学校は、通常学級在籍の子を含めた「気になる子」の写真入りの資料を作成し、学期に 2.3 回担任が現状を報告するなど全教職員が情報共有している。会議では、必ず「気になる子」を議題として取り上げ、教員の相談や報告について管理職やコーディネーターが支援方法を検討し決定する。また、特別支援学級への理解を促すため、児童に校内放送で紹介し、保護者にはプリントを配布している。

C 小学校のコーディネーターは、児童への必要な支援を見極め、できないことをできるようになる支援をしている。ケース会議や校内委員会を積極的に開催し、校内の相談役や外部機関との連携を図るなどの支援も行っている。このように、コーディネーターの仕事は多忙であるにもかかわらず、クラス担任と兼務の場合が多い。コーディネーターの仕事に専念できる環境を整える必要があると考える。

よりよい支援を行うため、支援のレパートリーを増やし、子どもや保護者に対しては感度の良いアンテナを持っていたい。また、「支援を必要とする子」に対して通常学級の子どもの意識を育むことにも取り組みたい。

質疑応答：

質問　インクルーシブ教育アドバイザーとは、校内の先生か外部の人か。

A　外部の人。教員として入っている。

参加者の感想より：

・周囲の子の意識を育むということは、合理的配慮をするために必要なことだと思う。
・子どもの支援において、「何をしなければならないか」「学校に対してどのように働きかけをしていくか」を改めて考えてみたい。
・コーディネーターの役割や位置づけを、学校全体で確認し意識づけることが大切だと思う。